

平成 19 年 10 月 25 日  
大阪ウォーターフロント開発（株）広報課  
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1  
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551  
<http://www.kaiyukan.com/>  
（担当：松原、清水、西村、齋部、松森）

## 海遊館初展示！

# ふあふあクラゲ館に「エチゼンクラゲ」を展示！

## 約 1 ヶ月の期間限定です

大阪市港区の海遊館では、平成 19 年 10 月 26 日（金）から、館内 3 階「ふあふあクラゲ館」で、海遊館初展示となる「エチゼンクラゲ」約 20 匹を期間限定（約 1 ヶ月）で展示します。

エチゼンクラゲは、夏から秋にかけて主に日本海に現れる大型のクラゲで、中国沿岸で発生し、対馬暖流に乗って日本海にやってくると考えられています。傘は半球状で、大きいもので傘の直径が 1m、重さが 200kg にも達する世界最大級のクラゲです。近年頻繁にエチゼンクラゲが大発生し、漁業などに被害が生じていることから、たびたびマスコミにも取り上げられており、現在、大発生の対策として、大学や水産庁などの研究機関で生活史の研究がすすめられています。

今回展示するエチゼンクラゲは、傘の直径が約 5 cm、口腕<sup>1</sup>の長さが約 3 cm で、昨年<sup>2</sup>の 11 月に研究機関からポリプ<sup>2</sup>を入手して海遊館で育てたもので、10 月 26 日（金）から約 1 ヶ月の期間限定で展示します。



「エチゼンクラゲ」

海遊館では、エチゼンクラゲをご覧いただくことで、「漁業被害を起こす」というマイナスイメージだけでなく、クラゲの魅力や、食用にもなるというクラゲと人間との関わりも知っていただければと考えています。また、エチゼンクラゲを飼育展示することで、エチゼンクラゲの生活史の解明の一助になればと考えています。

1 口 腕：クラゲの足のように見えるリボン状の部分で、エサを集める器官。

2 ポリプ：クラゲの一生は、一般的に水中を浮遊するクラゲの時期と、岩などの上に固着してイソギンチャクのような生活をする時期に分かれる。岩などに固着した状態をポリプという。

## 1.【展示概要】

展示期間：平成 19 年 10 月 26 日（金）から約 1 ヶ月間

生物の状況により、期間中でも予告なく展示を終了する場合があります。

場 所：海遊館 3 階「ふあふあクラゲ館」

展 示 数：約 20 匹（傘の直径約 5cm、口腕の長さ約 3 cm）

## 2.【エチゼンクラゲ】 学名 *Nemopilema nomurai*

日本と中国の沿岸に生息し、発生場所は中国沿岸といわれている。夏から秋にかけて、対馬暖流に乗って主に日本海へ入ってくる。世界最大級のクラゲで、成長すると傘の直径が 1m、体重 200kg にもなる。傘は半球状で、口腕には褐色の長いひも状の付属器が多数ある。ビゼンクラゲと同様に食用になるが、体がビゼンクラゲよりも軟らかいため、商品価値は低い。主に中華料理の食材として用いられる。以前はまれに見られるだけだったが、近年頻繁に大発生し、漁業などに被害が生じている。

## 3.【ふあふあクラゲ館】

平成 11 年 7 月 16 日に、海遊館 3 階の特別展示室をリニューアルして建設。床面積 289 m<sup>2</sup>の展示室に、水流、照明、音響を工夫した大小 12 基の水槽（総水量約 11t）を設置し、「透きとおった命の世界」をテーマに神秘的なクラゲの展示を行っている。館内の観覧通路の照明を暗くし、水槽の照明を工夫することにより、クラゲをより美しく、幻想的に観察することができる。館内の BGM にはオリジナルサウンドを使用し、さらに幻想的な雰囲気を高めている。現在 12 種約 600 匹のクラゲを展示している。

## 4.【今までに「ふあふあクラゲ館」で展示したクラゲ】

アカクラゲ、ミズクラゲ、ギヤマンクラゲ、ネクチクラゲ目の仲間、アマクサクラゲ、サカサクラゲ属の仲間、カプトクラゲ、アトランティックシーネットル、チョウクラゲ、カミクラゲ、キタユウレイクラゲ、タコクラゲ、オワンクラゲ、ドフラインクラゲ、カギノテクラゲ属の仲間、フサウミコップ、パープルストライプトジェリー、サルシアクラゲ、ウリクラゲ、ハナガサクラゲ、ビゼンクラゲ、オキクラゲ、カギノテクラゲ、キタミズクラゲ、パシフィックシーネットル、ブラックシーネットル、スナイロクラゲ、ヤナギクラゲ、バブラージェリー、シロクラゲ、ユウレイクラゲ（以上 31 種類）